

Intersight マネージドモードのサーバのゾーン分割を手動で設定する

内容

[はじめに](#)

[前提条件](#)

[要件](#)

[使用するコンポーネント](#)

[背景説明](#)

[設定](#)

[Nexus 5596](#)

[ストレージアレイ](#)

[結論](#)

[関連情報](#)

はじめに

このドキュメントでは、Intersight Managed Mode(IMM)でUCSサーバのストレージスイッチに手動でゾーンを作成する方法について説明します。

前提条件

要件

次の項目に関する知識があることが推奨されます。

- IMMでのSAN(BFS)からのブートの設定方法

使用するコンポーネント

このドキュメントの情報は、次のソフトウェアとハードウェアのバージョンに基づいています。

- UCS X210 M6 5.2(0.230092)
- UCS 6536ファブリックインターコネクタ(FI)4.2(3c)
- Nexus 5596
- 純粋なストレージアレイFA-X20R2
- Intersight マネージドモードSaaS

このドキュメントの情報は、特定のラボ環境にあるデバイスに基づいて作成されました。このドキュメントで使用するすべてのデバイスは、クリアな(デフォルト)設定で作業を開始しています。本稼働中のネットワークでは、各コマンドによって起こる可能性がある影響を十分確認してください。

背景説明

このドキュメントでは、SANからのブート(BFS)がIntersightのサーバですでに設定されていることを前提としています。『[IntersightマネージドモードでのSANからのブートの設定](#)』を参照してください。

このガイドで使用する特定のモデルは環境によって異なる場合がありますが、基盤となる原則は、使用するストレージ・スイッチやストレージ・アレイに関係なく同じで、移行可能です。変更を加える前に、必ず環境のバックアップを作成することをお勧めします。

このドキュメントの目的は、Cisco Bug ID [CSCwh56134](#)で示されている仮想インターフェイスカード(VIC)の動作が最近変更されたことにより、ストレージスイッチでゾーンを手動で設定する方法について説明することです。従来、ユーザーはData Center Network Manager(DCNM)などのツールを使用して、UCSイニシエータがファブリックにログインする際にそれを検出し、ストレージアレイ上の論理ユニット番号(LUN)に自動的にマッピングしていました。ただし、イニシエータのログイン時にLUNがイニシエータにマッピングされていない場合は、数秒後にログアウトし直されるため、ユーザーは自動構成を実行できません。

この設定を開始する前に、次の要件を満たしていることを確認してください。

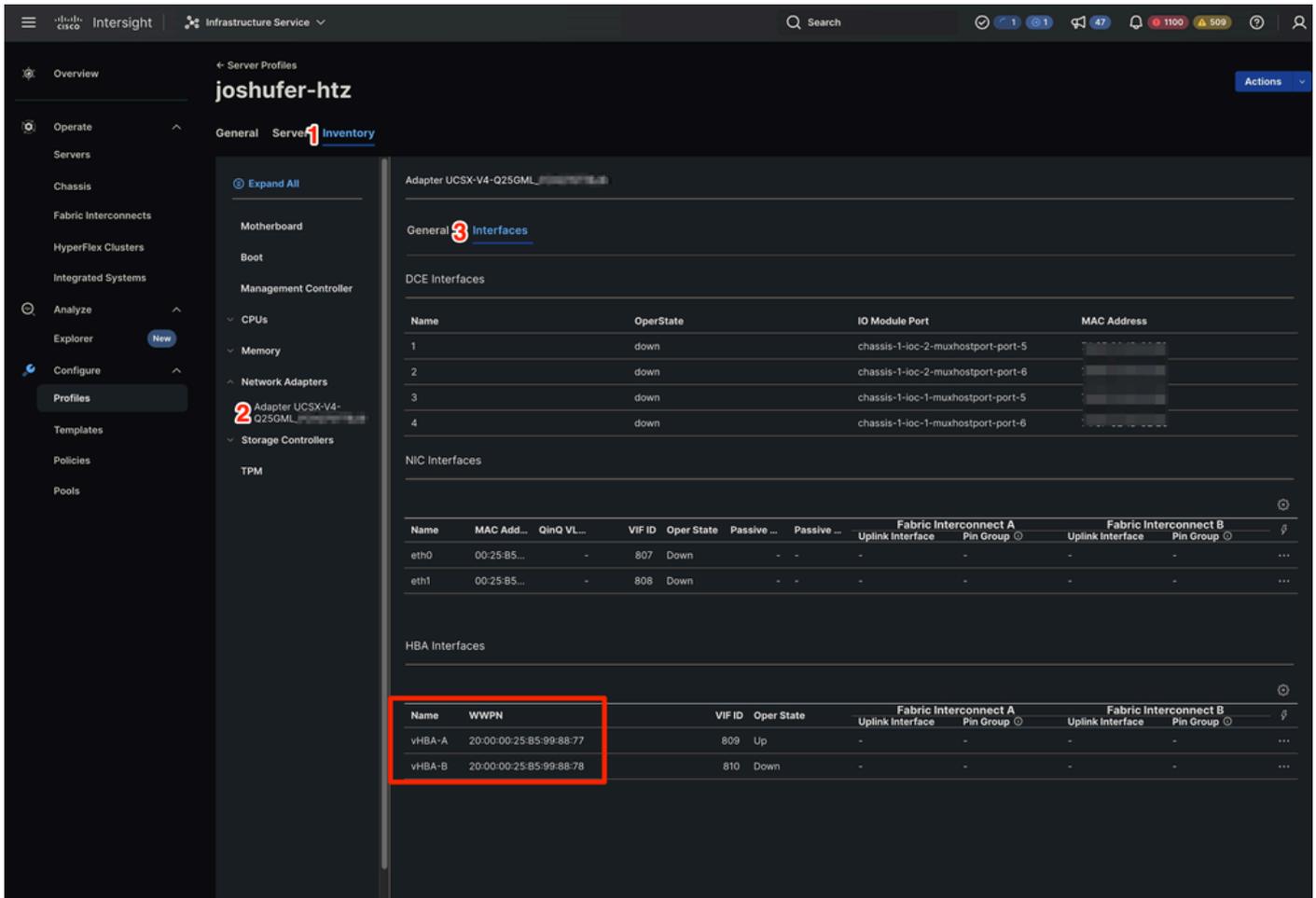
- 仮想ストレージエリアネットワーク(VSAN)ID (Ciscoストレージスイッチを使用している場合)
- イニシエータおよびターゲットからのWWPN(World Wide Port Name)
- 現在アクティブなゾーンセットに精通していること

このドキュメントで使用されているWWPN、vSAN ID、およびゾーンはラボネットワークのものであり、お客様の環境で使用されるものではありません。

vSANはシスコ独自のプロトコルであり、使用するストレージスイッチによって値が異なるか、またはまったく存在しない場合があります。vSANの詳細については、『[vSANについて](#)』を参照してください。

イニシエータWWPNは、BFS構成でサーバ上に構成された内容に対応します。これらのインターフェイスは、ゾーン分割するサーバのサーバプロファイルに移動し、Inventoryを選択して(1)、Network Adaptersを展開し(2)、Network Adapterを選択して(3)、最後にInterfacesを選択することで見つけることができます。

HBA Interfacesの下にイニシエータWWPNがあります。



IMMでのWWPNの場所

ターゲットWWPNは、ストレージアレイのポートWWPNに対応しています。場所はストレージアレイによって異なります。

設定

Nexus 5596

設定を開始する前に、各ストレージスイッチで現在実行中のゾーンセットをバックアップできます (複数のゾーンセットが使用されている場合)。

ゾーンのマージによってゾーン情報が学習されたときは、学習されたその情報は、実行コンフィギュレーションに統合されません。次の場合のみ zone copy active-zoneset full-zoneset vsanX コマンドを発行すると、学習された情報が実行コンフィギュレーションに組み込まれます。新しい Extended Inter-Switch Link Protocol(EISL)リンクまたはゾーンセットのアクティブ化によってゾーンのマージが開始されると、ゾーンセット部分がもう一方のスイッチによって無視され、メンバゾーン情報が局所的なものに見なされるため、これは重要な点です。詳細については、「[2つのMDSスイッチが異なるアクティブゾーンセット名で接続されている場合のゾーンマージの動作](#)」を参照してください。

A Side:

```
5596-A# zone copy active-zoneset full-zoneset vsan 1010
```

```
WARNING: This command may overwrite common zones in the full zoneset. Do you want to continue? (y/n) [n]
```

B Side:

```
5596-B# zone copy active-zoneset full-zoneset vsan 1011
```

```
WARNING: This command may overwrite common zones in the full zoneset. Do you want to continue? (y/n) [n]
```

次に、いずれかのストレージスイッチのコンフィギュレーションモードを開始します。

A Side:

```
5596-A(config)# config t
```

B Side:

```
5596-B(config)# config t
```

次に、新しいゾーンを作成します。

A Side:

```
5596-A(config)# zone name joshufer-htz vsan 1010
```

B Side:

```
5596-B(config)# zone name joshufer-htz vsan 1011
```

ゾーンを作成したら、イニシエータ (サーバ) とターゲット (ストレージアレイ) のWWPNをゾーンに追加する必要があります。

この例では、A側とB側の両方に1つのターゲットとイニシエータがあります。ネットワークに複数のA/Bサイドパスがある場合は、対応するWWPNもこれらのゾーンに追加する必要があります。

A Side:

```
5596-A(config-zone)# member pwwn 52:00:00:00:00:00:00:00 (This should be your storage array target WWPN)
```

```
5596-A(config-zone)# member pwwn 20:00:00:25:B5:99:88:77 (This should be your server's WWPN's)
```

B Side:

```
5596-B(config-zone)# member pwwn 53:00:00:00:00:00:00:00 (This should be your storage array target WWPN)
```

```
5596-B(config-zone)# member pwwn 20:00:00:25:B5:99:88:78 (This should be your server's WWPN's)
```

新しいゾーンにWWPNを追加したら、新しく作成したゾーンを追加するアクティブなゾーンセットを見つける必要があります。

A Side:

```
5596-A(config)# show zoneset active vsan 1010 | i zoneset
zoneset name pure-1010 vsan 1010
```

B Side:

```
5596-B(config)# show zoneset active vsan 1011 | i zoneset
zoneset name pure-1011 vsan 1011
```

次に、アクティブなゾーンセットに新しいゾーンを追加します。

A Side:

```
5596-A(config-zone)# zoneset name pure-1010 vsan 1010
5596-A(config-zoneset)# member joshufer-htz
```

B Side:

```
5596-B(config-zone)# zoneset name pure-1011 vsan 1011
5596-B(config-zoneset)# member joshufer-htz
```

次に、新しいゾーンが追加されたゾーンセットをアクティブ化します。

A Side:

```
5596-A(config-zoneset)# zoneset activate name pure-1010 vsan 1010
Zoneset activation initiated. check zone status
```

B Side:

```
5596-B(config-zoneset)# zoneset activate name pure-1011 vsan 1011
Zoneset activation initiated. check zone status
```

最後に、アクティブなゾーンセットを確認し、新しいゾーンが追加されたことを確認します。このコマンドは、ゾーンセット内に設定されているすべてのゾーンを表示します。通常、最新のメンバはリストの一番下に表示されます。

A Side:

```
5596-A(config)# show zoneset active vsan 1010

zoneset name pure-1010 vsan 1010
  {Cut for brevity}
zone name joshufer-htz vsan 1010
  * fcid 0xaf0040 [pwwn 52:00:00:00:00:00] [pure_ct0_fc8]
  * fcid 0x390081 [pwwn 20:00:00:25:B5:99:88:77]
```

B Side:

```
5596-B(config)# show zoneset active vsan 1011

zoneset name pure-1011 vsan 1011
  {Cut for brevity}
zone name joshufer-htz vsan 1011
  * fcid 0xbf0040 [pwwn 53:00:00:00:00:00] [pure_ct1_fc8]
  * fcid 0x390082 [pwwn 20:00:00:25:B5:99:88:77]
```

特定のWWPNの横にある* (アスタリスク) は、そのWWPNがファブリックにログインしていることを意味します。これはFLOGIと呼ばれます。この出力は、MDSとUCS間、およびMDSとストレージレイ間のリンクがアップしていることを示しています。

ストレージレイ

ストレージレイの観点からは、ストレージレイがLUNをイニシエータにマッピングできるように、LUNマスキングを実行する必要があります。

このプロセスはストレージレイの製造元によって異なります。特定のハードウェアでLUNマスクを作成する方法については、それぞれのマニュアルを参照してください。

一般的に、LUNマスキング・プロセスには、LUN/ストレージ共有の作成、LUN IDの割り当て (ブート・ポリシーで構成されたLUNに対応)、UCSサーバのイニシエータWWPNの割り当てが含まれます。

MDSでFLOGIが正常に実行された後でLUNがイニシエータWWPNにマスクされていない場合、イニシエータはログアウトします。

結論

この手順を実行すると、UCSサーバ、ストレージスイッチ、およびストレージレイの間に完全なSAN接続が確立されます。

関連情報

- [シスコのテクニカルサポートとダウンロード](#)

翻訳について

シスコは世界中のユーザにそれぞれの言語でサポート コンテンツを提供するために、機械と人による翻訳を組み合わせて、本ドキュメントを翻訳しています。ただし、最高度の機械翻訳であっても、専門家による翻訳のような正確性は確保されません。シスコは、これら翻訳の正確性について法的責任を負いません。原典である英語版（リンクからアクセス可能）もあわせて参照することを推奨します。